

今回は、学校推薦型選抜を活用した進路実現の報告その3です。

◇ 富山大学人文学部人文学科の合格体験記（田口琴音さん）です！

私はこの度、学校型推薦で富山大学人文学部人文学科に合格しました。

推薦は高校1年の頃から考えていましたが、深く考えることはしていなくて、大学を含め、ちゃんと考えたのは高3の夏休みあたりです。大学の候補もこの頃に考え、候補の中から推薦が受けられる大学を調べて決めました。考え始めたのが遅かったため、受けられないところもありました。推薦を考えている人は早めに色々な大学を調べておくことをおすすめします。

◇ 受験対策について

私が受けた推薦は、共通テストより先に小論文試験があったので、10月の後半から11月の後半までの約1ヶ月間を使い小論文対策をしました。過去問を解いては先生に添削してもらうことを繰り返して対策を行いました。

私は3年間を通してFRH活動でLGBTQについて調べ、啓発活動を行ってきました。その経験が小論文を書く上でとても役立ちました。自分の意見についての根拠を書く時、新書などをもとにしてもいいのですが、自身が体験したことだとより記憶に残り、書きやすく、応用もしやすいと私は考えます。また、私は本番に緊張して書くことを忘れしてしまうことが多いので、今まで行ってきた漫画作成や、当事者との交流、イベントなどで起こったこと、それに関して思ったこと、考えたことをノートに書き起こして、直前まで見られるようにしました。

小論文試験の本番が終わったら、あとは共通テストに向けて問題集に取り組みました。学校で購入したテキストを授業で解き、家で簡単な復習をしました。古典の単語などは、教科担任の古川真哉先生お手製の「これだけ古典」を、時間のある時に見ることを繰り返して自信をつけました。12月に入ると、家で勉強するのは副教科ばかりになり、主要教科は学校の復習ばかりしていました。受験可能な外部模試はできる限り受けていたため、この頃には、1年間の模試の分析データが多くあり、苦手な問題の傾向などが分かっていたため、そこを中心に勉強していました。副教科は直前まで点数が安定しなくて不安でしたが、諦めないでやり続ければ本番に点数が上がります。実際、世界史も政経も、共通テスト1週間前の模試結果より本番は30点近く上がりました。早めに苦手を理解してそこを徹底的にやるといいと思います。あと、本番前日はちゃんと寝ること、朝は6時には起きるとスッキリして頭が働きます。朝ごはんもちゃんと食べましょう。

文系は1日目の初めから2時間連続で試験なので、終わった頃にはお腹がすきます。休み時間は長いので単語帳を見たりして勉強すると共に、お菓子などで糖分補給をして休憩することも大切です。

共通テストが終わったら、2次試験に向けて記述の勉強を始めました。推薦の結果は2月中旬まで分からないので、結果発表まではそのことを出来る限り考えないようにして、勉強していました。記述対策は、問題を解いたら先生に添削をお願いして、自分がどれくらい出来ているかを確認しました。私は特に英語が苦手なので、英文の分からない単語には線を引き、後で調べ確認用ノートに記入するなどして単語を覚えました。

受験を通して、私が大切だと思ったことは主に2つあります。1つ目は、授業はちゃんと出席するということです。自分の勉強をしたいと言う気持ちも分かりますが、学校では共通テスト対策用に授業が行われますし、解説もして下さいます。2つ目は、息抜きをちゃんとするということです。受験期だからと言ってやりたいことを制限するのは精神的に良くないです。疲れたなと思ったら音楽を聴くでも、ゲームをするでも、本を読むでも、自分の好きなことを

して休憩することが大切です。制限をしすぎないように、自分を追い詰めない程度に頑張ることが大事だと思います。

◇ LGBTQに関する啓発活動について

私は、仲間とともに、LGBTQに関する啓発活動に取り組みました。研究し始めたきっかけはシンポジウムのポスターを見たからです。初めはLGBTQという言葉を知らないから調べてみるか、位の軽い気持ちでした。まずは、関市と関高校が主催したシンポジウムに参加して、当事者のことや自助団体が行っている取り組みを知り、私たちにできることを考えました。

活動を行う中で、関市では、LGBTQの啓発パンフレットを発行していることを知って、私たちも啓発活動に貢献できればと思い、漫画やパンフレットを作成しました。実際に、関市や美濃加茂市の公立図書館でLGBTQの認知度に関するアンケートをとり、それをもとに漫画(右上写真)、パンフレット(右下写真)を作成しました。

作成当初の目標は、関市内の小中学校に配布すること。簡単なことではありませんが、目標を立てるなら大きく！ということでこれを目標にしました。漫画やパンフレットは、小中学生にも伝わりやすいように表現を工夫し、先生や当事者の方にアドバイスを貰いながら修正を繰り返して完成させました。

例えば、色使い。私たちは無意識のうちに男の子は青、女の子は赤といった色を決めつけて使っていることがあります。これを差別と捉える人がいるかもしれない。違う色にした方がいいんじゃないか。このように今まで気づかなかったことをこの活動で知ることができました。

3年生の時、シンポジウムに主催側として参加しました。予定では2年生で参加する予定でしたが、コロナ禍のため中止となり、3年生でようやくオンラインで参加できるようになりました。今までの研究の発表やトークセッションの参加など、準備や練習は大変でしたが、とても達成感のあるイベントになりました。

そして、関市市民協働課の方にも手伝ってもらい、関市内の小中学校や公共施設に漫画、パンフレットを配布してもらい、1年生の時に設定した目標も達成できました。また、この活動を通して社会問題を研究し、解決策を見つけていきたいと思い、私は学びたい学部学科や志望大学を決めました。

活動を始めたきっかけは、興味・関心からでしたが、そこから3年間をかけて取り組んだことにより、自分自身の進路の決定を左右するものにまでなりました。どんな活動も必ずどこかで自分の役にたつ。それを実感できる体験でした。

Love your life.

Live your loved life.

